

II. 食品の安全性の確保について

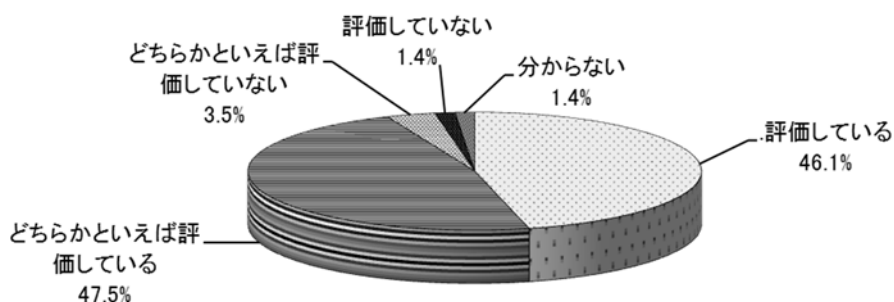
< 食品安全行政全般について >

6. 食品の安全性確保のための取組に対する評価（問 6）

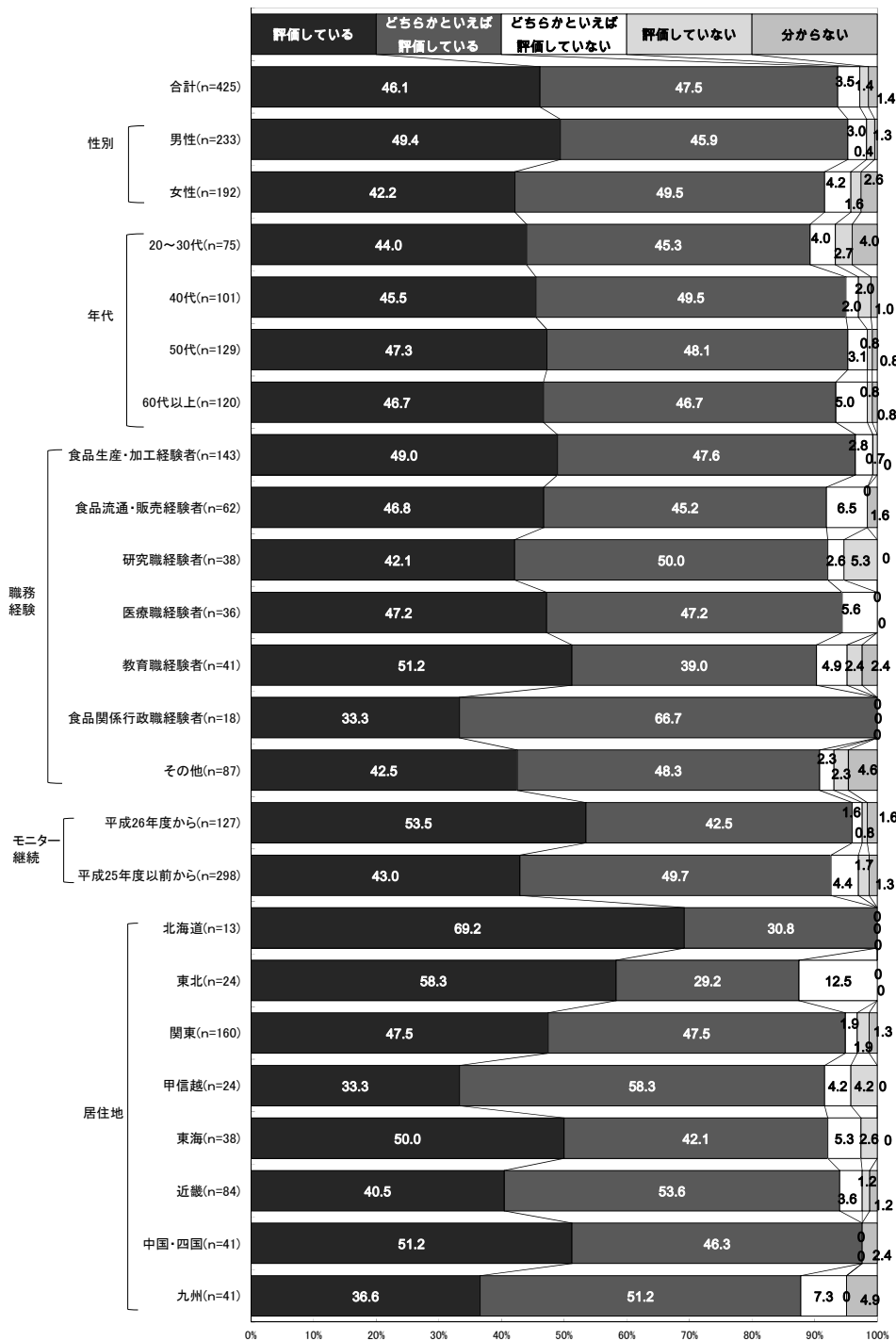
問 6 我が国の食生活が豊かになる一方、BSE の発生や残留農薬問題など食の安全を脅かす事件が相次いで発生しました。こうした情勢の中、平成 15 年 7 月 1 日に食品安全基本法が施行され、これに伴い内閣府に食品安全委員会が設置されるなど、食品の安全性の確保のための新たな取組がとられてきましたが、あなたはこれらの取組を評価していますか。当てはまるものを選択肢 1~5 の中から 1 つ選んでください。

- 食品の安全性の確保のための取組に対する評価を尋ねたところ、「評価している」と「どちらかといえば評価している」の合計は、93.6%であった。
- 平成 20 年度調査、平成 15 年度調査では「評価している」と「ある程度評価している」の合計は、それぞれ、90.6%、96.1%であった。

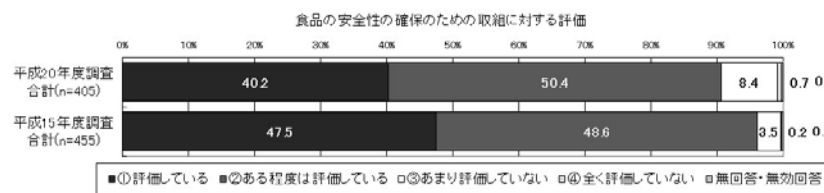
図表 6-1 食品の安全性確保の取組に対する評価（n=425）



図表 6-2 食品の安全性確保の取組に対する評価（属性別）



<参考>平成15年度及び平成20年度調査



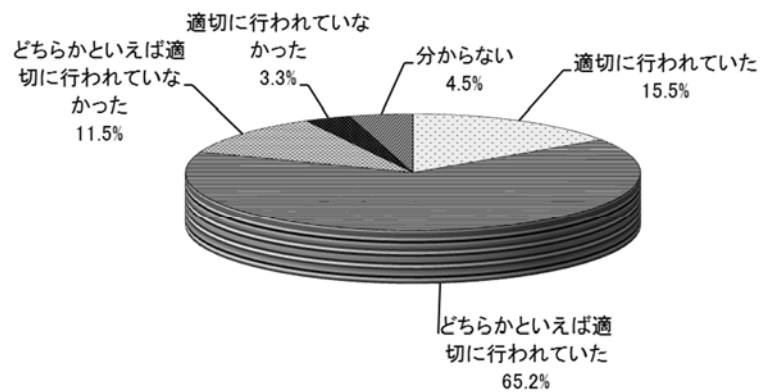
※今回調査と平成15・20年度調査における選択肢の文言が一部異なることに留意。

7. 食品の安全の分野における行政のリスクコミュニケーションの評価（問7）

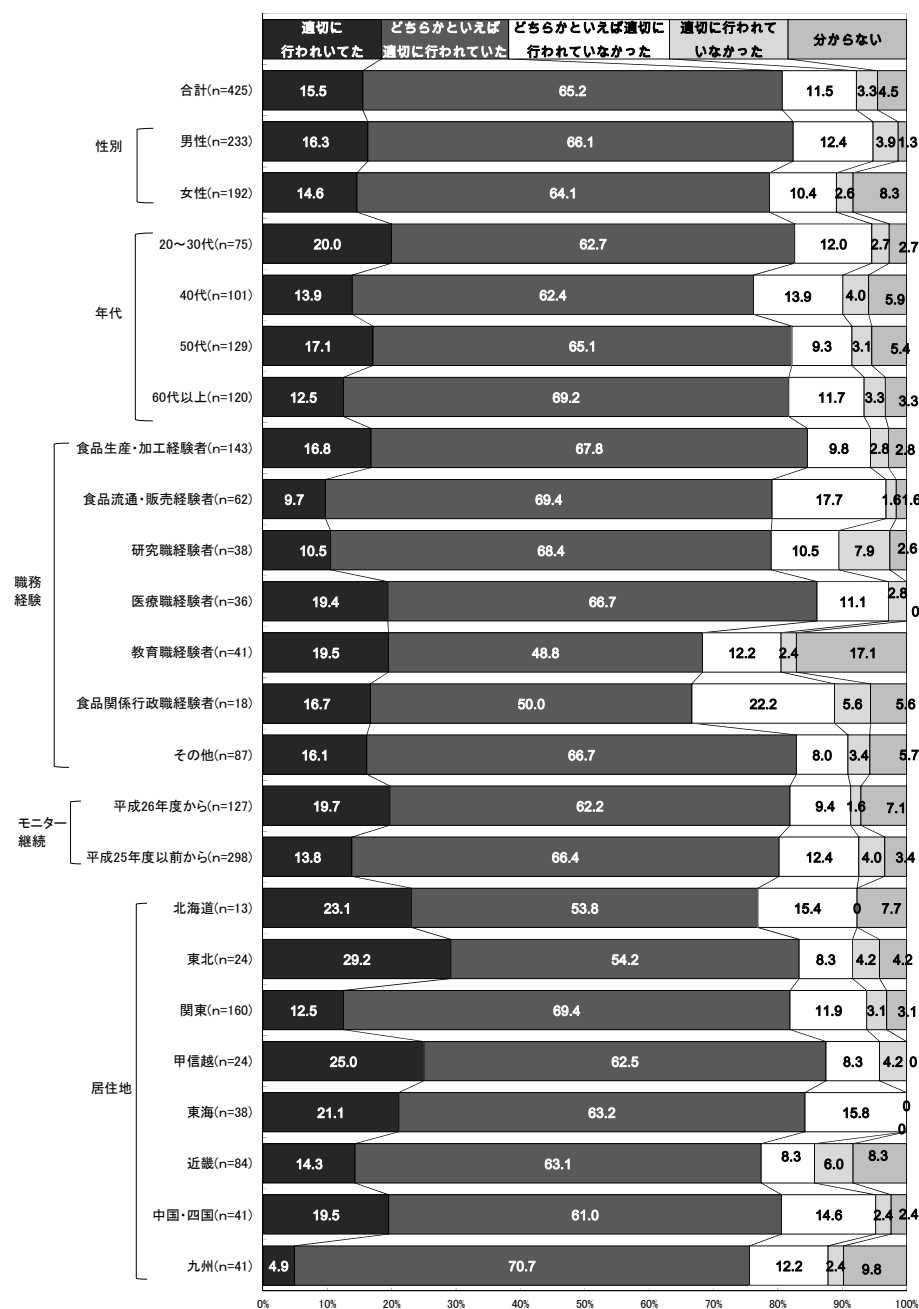
問7 食品の安全の分野において、これまでに行政機関が行ってきたリスクコミュニケーションについて、あなたの評価を選択肢1～5の中から1つ選んでください。

- 食品安全の分野におけるリスクコミュニケーションの評価について尋ねたところ、「適切に行われていた」と「どちらかといえば適切に行われていた」合計は、80.7%であった。
- 平成20年度調査では「適切に行われていた」と「十分ではないが行われていた」の合計は74.1%であり、リスクコミュニケーションが行われていたと評価する割合は増加している。

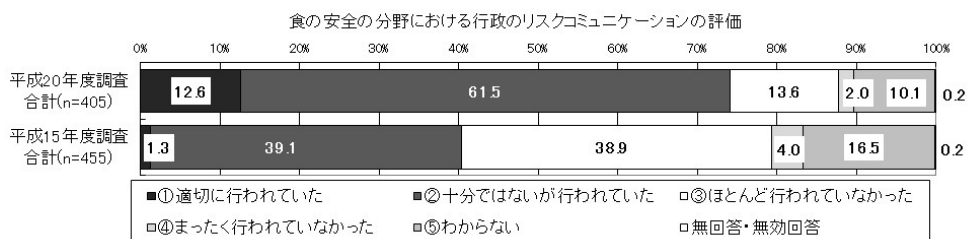
図表 7-1 食品の安全分野における行政のリスクコミュニケーションの評価（n=425）



図表 7-2 食品の安全分野における行政のリスクコミュニケーションの評価（属性別）



＜参考＞平成 15 年度及び平成 20 年度調査



※今回調査と平成 15・20 年度調査における選択肢の文言が一部異なることに留意。

8. リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由（問8）

問8 問7で、「3 どちらかといえば適切に行われていなかった」又は「4 適切に行われていなかった」を選んだ方にお聞きします。食品の安全の分野で、リスクコミュニケーションが適切に行われていなかった理由を選択肢1～4の中から1つ選び、その事例を1つ挙げてください。

- リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由を尋ねたところ、「行政機関から提供された情報が分かりにくかった」と回答した人が最も多く、次いで「行政機関から必要な情報が早く提供されていなかった」、「関係者の間の意見交換が十分にされていない」となった。
- 平成20年度調査では、「関係者相互の間でお互いのギャップを解消するような機会が十分でない」が最も多く、次いで、「消費者側からの情報や意見を汲み取るシステムが不十分」、「必要な情報は早く正確に提供されていない」の順であった。

図表 8-1 リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由（今年度）

今回調査選択肢	1.行政機関から必要な情報が早く提供されていなかった	2.行政機関から必要な情報が正確に提供されていなかった	3.行政機関から提供された情報が分かりにくかった	4.関係者の間の意見交換が十分にされていない	5.その他
今回調査(n=63)	9	12	15	12	15

図表 8-2 リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由（平成15、20年度）

平成20年度調査選択肢	1.必要な情報は早く正確に提供されていない	2.消費者側からの情報や意見を汲み取るシステムが不十分	3.関係者相互の間でお互いのギャップを解消するような機会が十分でない	4.その他	無回答・無効回答
平成20年度調査(n=63)	13	16	26	4	4
平成15年度調査(n=198)	104	17	68	8	1

図表 8-3 リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由
事例別人数（今回調査）

事例	行政機関から必要な情報が早く提供されていなかった	行政機関から必要な情報が正確に提供されていなかった	行政機関から提供された情報が分かりにくかった	関係者間の意見交換が十分になされていなかった	その他	総計
放射性物質の問題	1人	—	5人	1人	1人	8人
廃棄食品の不正流通問題	—	2人	—	—	1人	3人
いわゆる「健康食品」	1人	—	—	—	1人	2人
中国産冷凍ギョーザ事件	2人	—	—	—	—	2人
肉の生食	—	1人	1人	—	—	2人
飽和脂肪酸の食品成分表示	—	1人	—	—	—	1人
原材料の虚偽	—	1人	—	—	—	1人
放射線照射食品	—	1人	—	—	—	1人
リステリアの検査基準	—	—	1人	—	—	1人
遺伝毒性物質など(専門用語の誤報道)	—	—	1人	—	—	1人
BSE	—	—	—	1人	—	1人
HACCP	—	—	—	1人	—	1人
農業	—	—	—	1人	—	1人
魚の水銀汚染	—	—	—	—	1人	1人
カフェイン中毒死亡事故	—	—	—	—	1人	1人
加工肉・レドミート	—	—	—	—	1人	1人
食品添加物の安全性	—	—	—	—	1人	1人

※事例回答のあったサンプルのみ集計。事例を複数挙げた回答、事例が具体的でない回答は表に含んでいない。

<参考> リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由
事例別人数（平成20年度調査）

事例	行政機関から必要な情報が早く正確に提供されていなかった	消費者側からの情報や意見を汲み取るシステムが十分に整備されていなかった	消費者、行政機関、事業者などの関係者相互の間で互いの情報や意見を交換し、お互いのギャップを解消するような機会(例えば意見交換会の開催)が十分になかった	その他	総計
中国産ギョーザ事件	2人	7人	3人	—	12人
BSE問題	2人	—	6人	1人	9人
偽装問題	1人	—	2人	—	3人
輸入食品の安全性	—	1人	1人	—	2人
金沢異物混入事件	1人	—	—	—	1人
農業の使用	—	—	1人	—	1人

※事例回答のあったサンプルのみ集計

<食品安全委員会について>

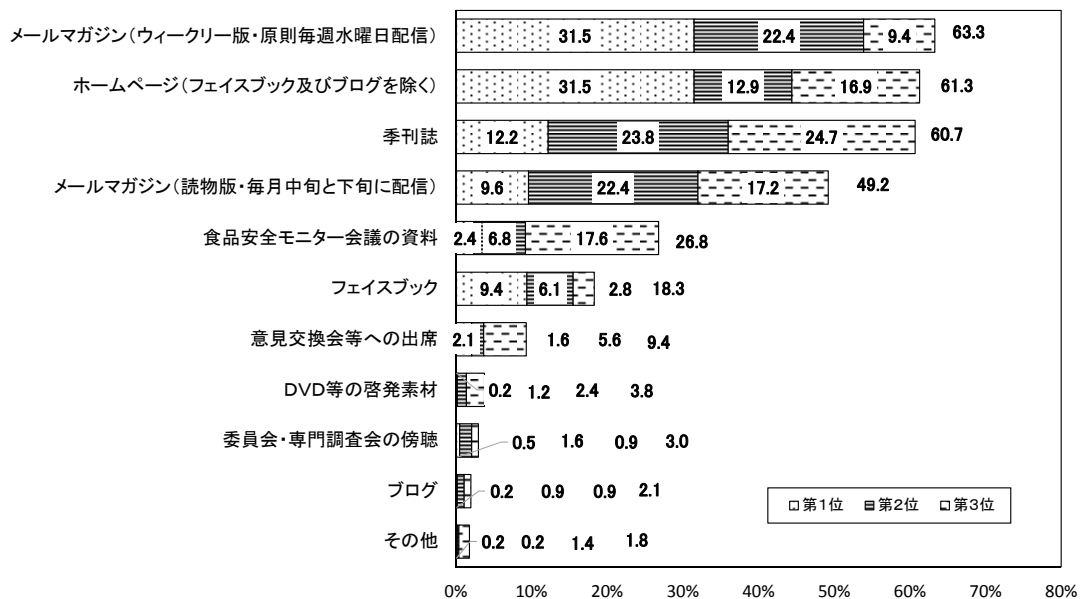
9. よく利用する食品安全委員会からの情報（問9）

問9 あなたがよく利用する食品安全委員会からの情報は何ですか。選択肢1～11の中からよく利用しているものから順に3つ選んでください。

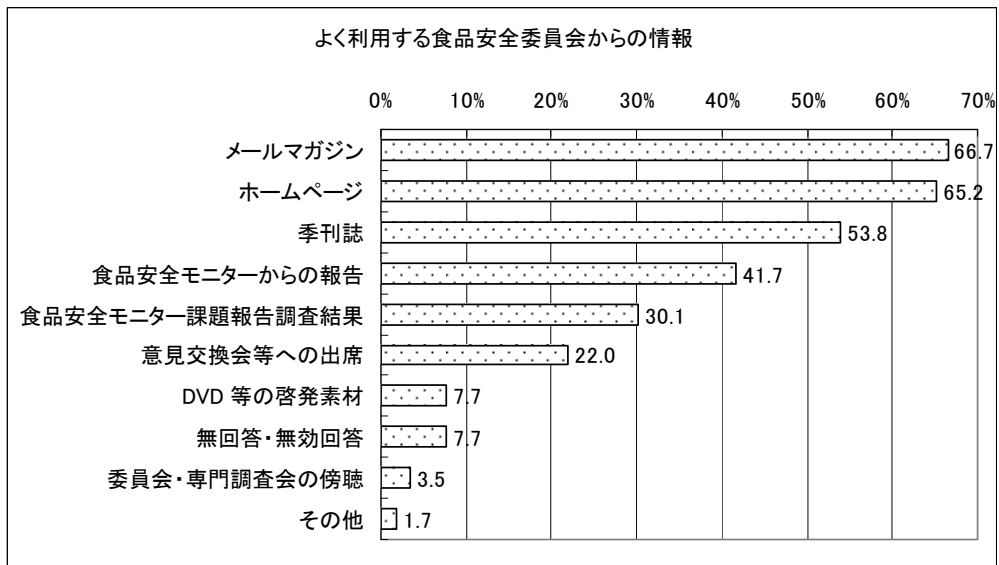
- 食品安全委員会からの情報源をよく利用する順に3つ尋ねたところ、第1位は「メールマガジン（ウィークリー版）」と「ホームページ（フェイスブック及びブログ除く）」が31.5%と最も多かった。第2位、第3位は「季刊誌」がそれぞれ23.8%、24.7%と多かった。
- 第1位～第3位までの合計は、「メールマガジン（ウィークリー版）」、「ホームページ（フェイスブック及びブログ除く）」及び「季刊誌」が60%以上になっている。
- 第1位～第3位までの合計は、平成20年度調査との比較では、メールマガジン（ウィークリー版）とホームページ、季刊誌の順位は変わらなかった。

注：週1回配信するメールマガジン（ウィークリー版）は、平成18年6月から開始し、月1～2回配信するメールマガジン（読み物版）は平成24年4月から開始している。

図表 9-1 よく利用する食品安全委員会からの情報源

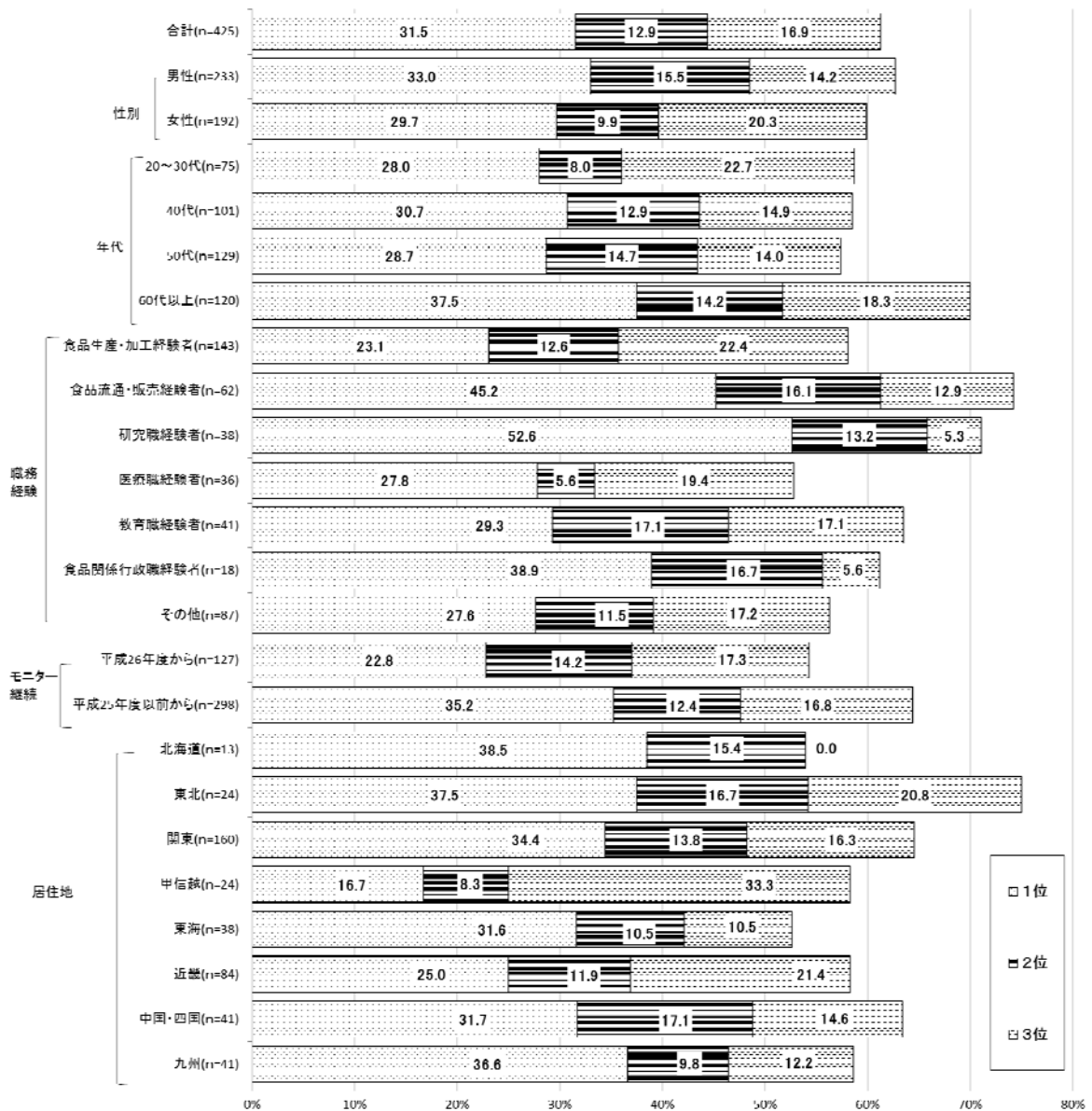


<参考>よく利用する食品安全委員会からの情報源（平成20年度調査結果）

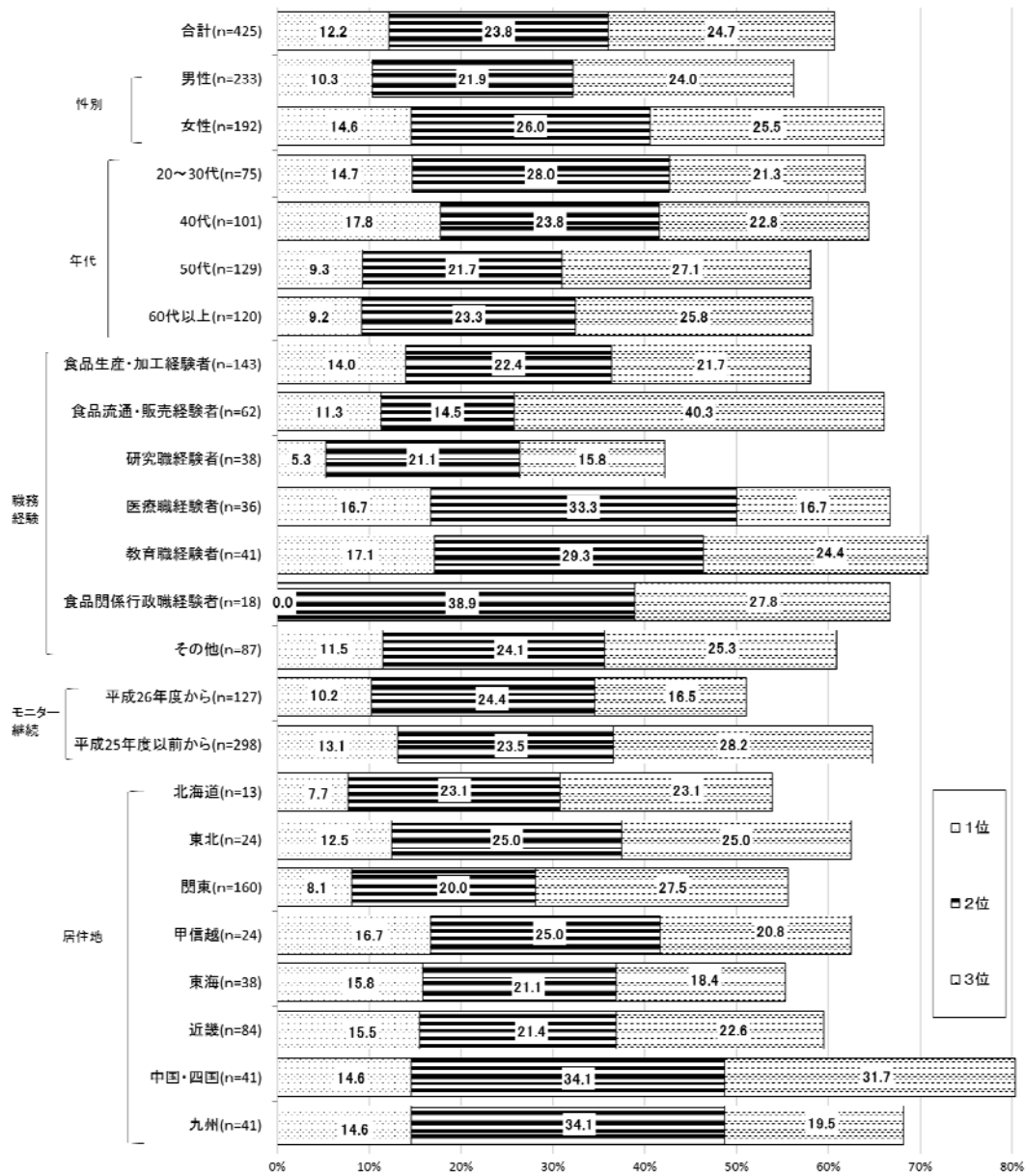


※よく利用しているものから順に3つ選択させた。

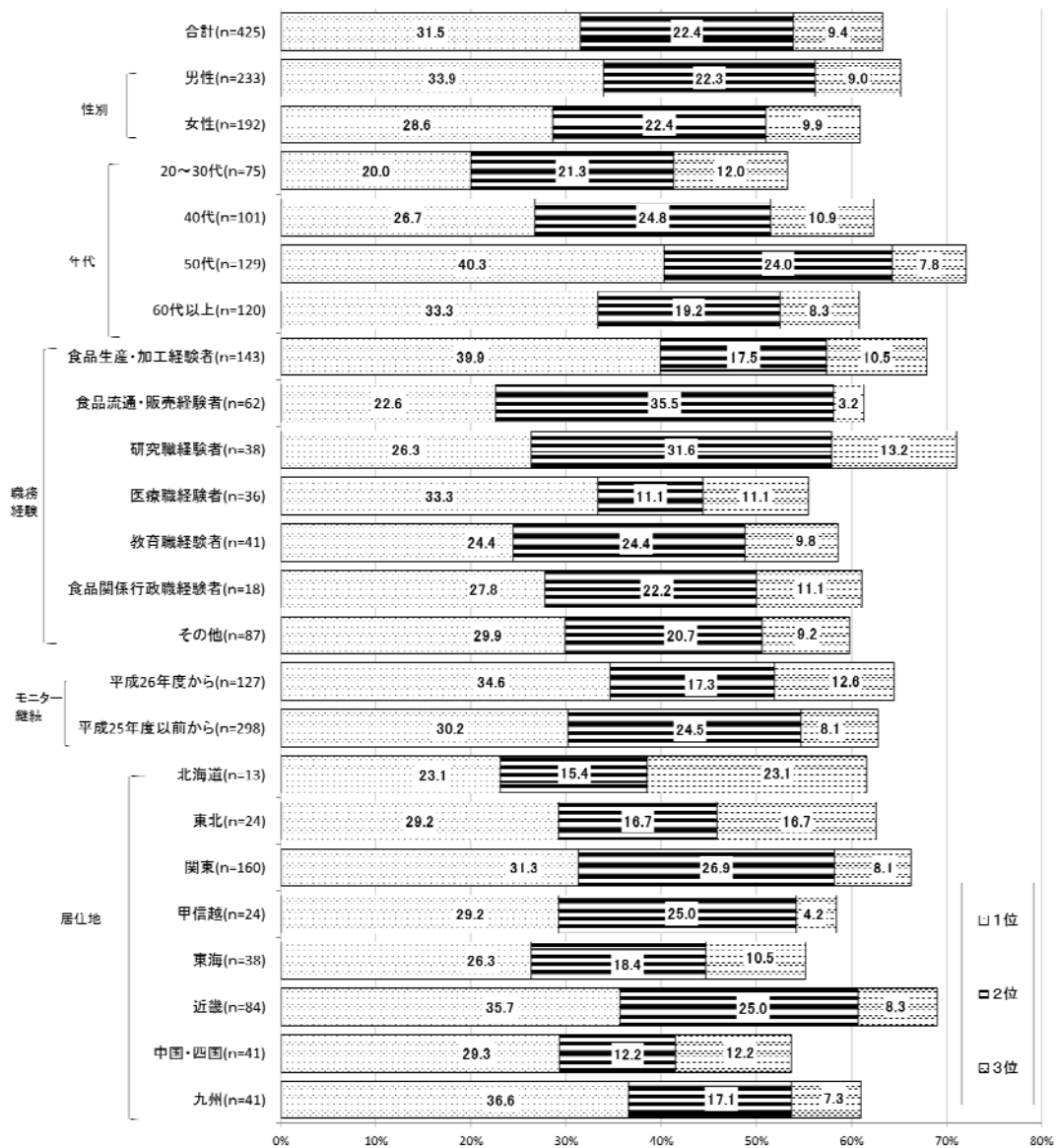
図表 9-2 よく利用する食品安全委員会からの情報源
 (ホームページ(フェイスブック及びブログを除く)属性別)



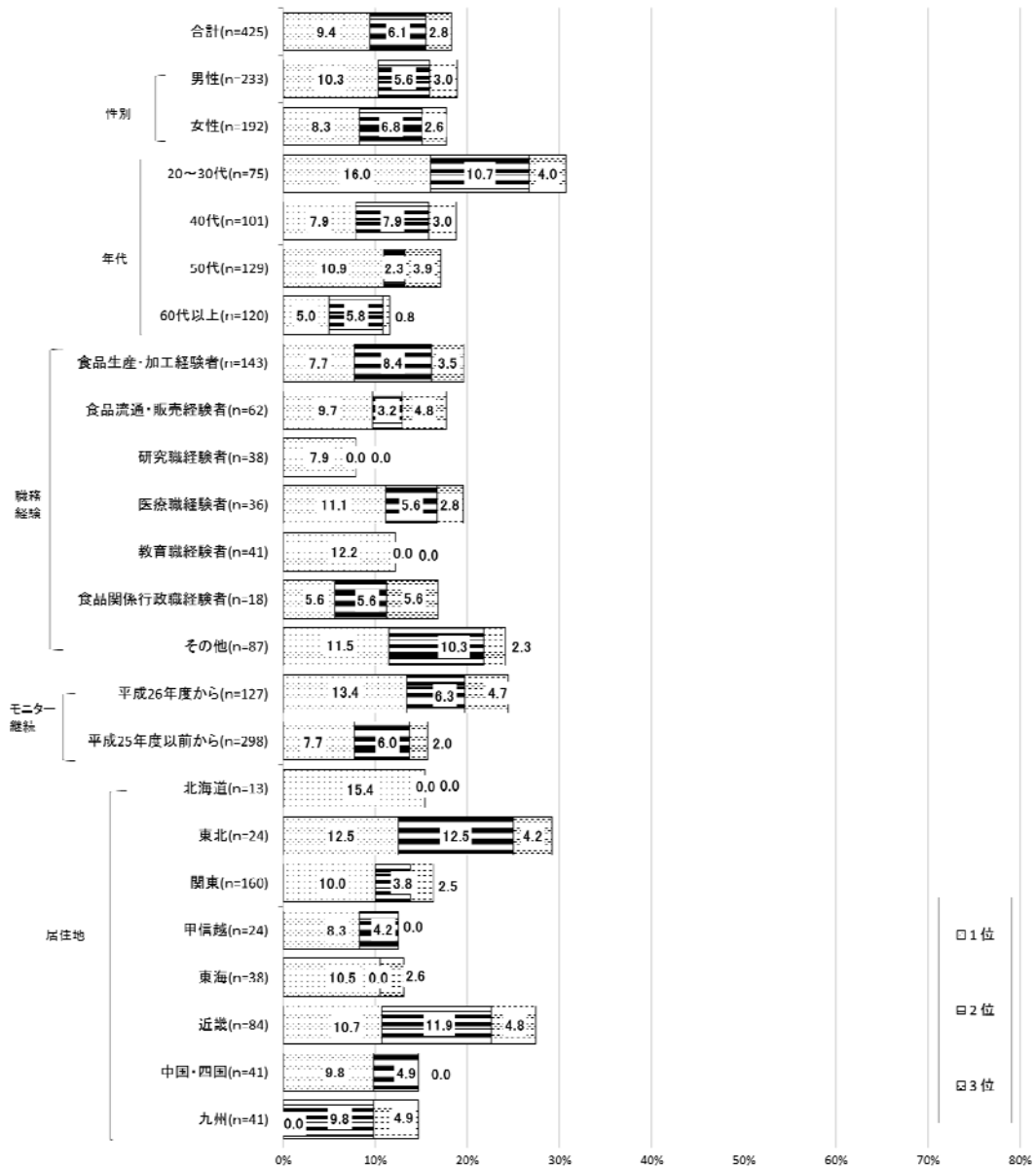
図表 9-3 よく利用する食品安全委員会からの情報源
(季刊誌 属性別)



図表 9-4 よく利用する食品安全委員会からの情報源
 (メールマガジン(ウィークリー版・原則毎週水曜日配信) 属性別)



図表 9-5 よく利用する食品安全委員会からの情報源
(フェイスブック 属性別)

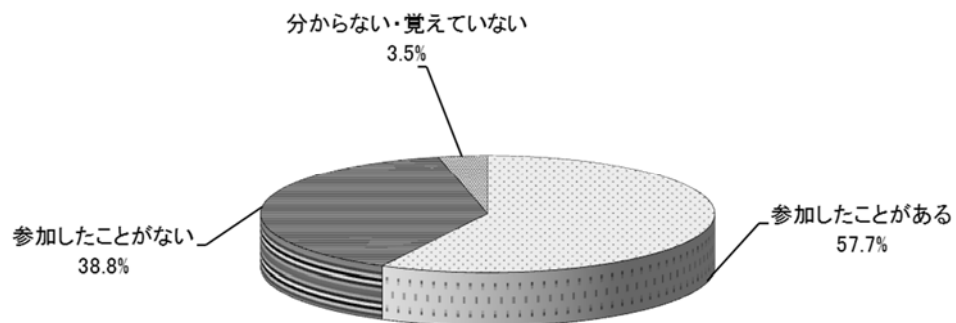


10.食品の安全についての意見交換会への参加（問 10）

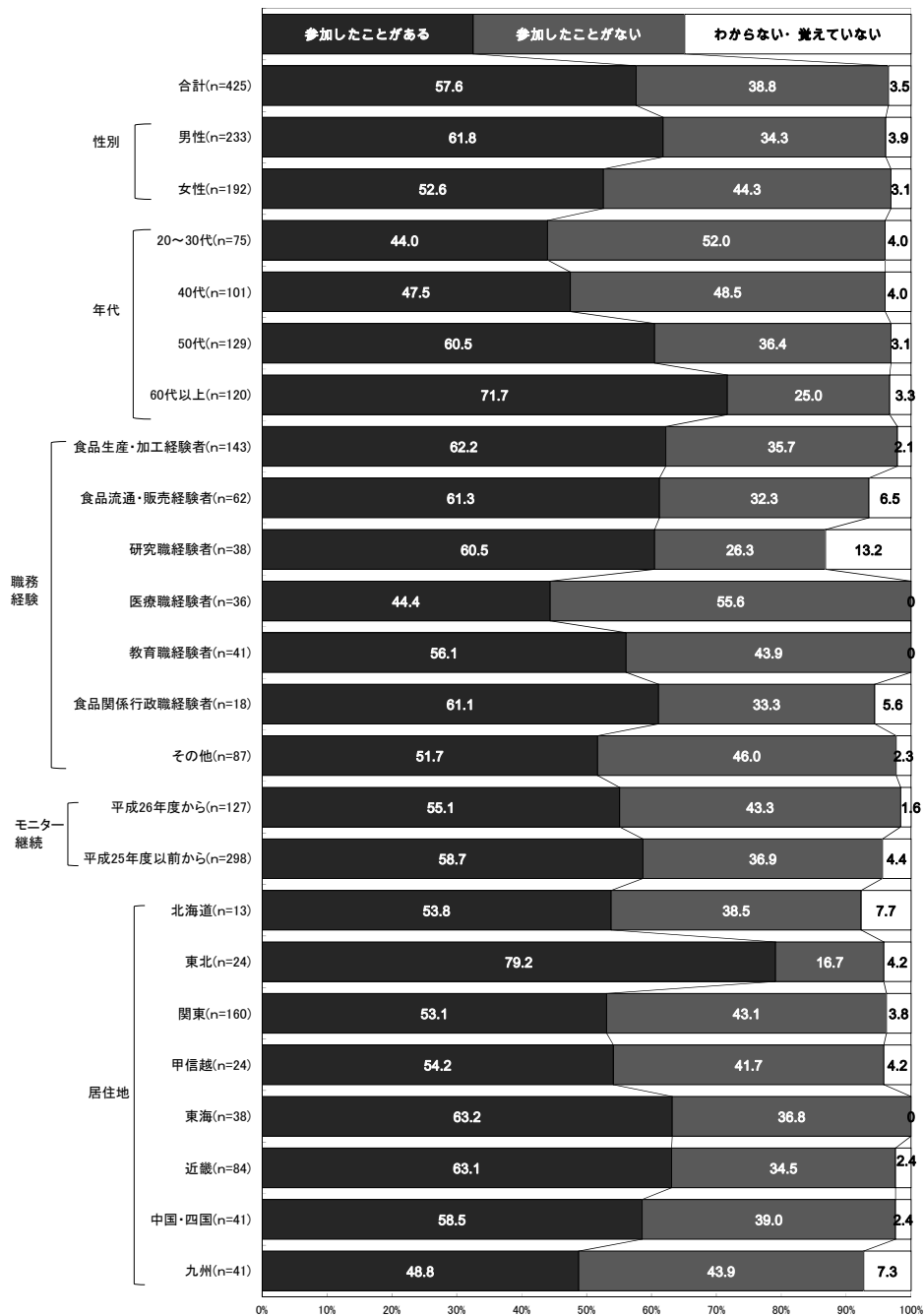
問 10 あなたは、食品安全委員会や地方自治体が主催した食品の安全についての意見交換会に参加したことがありますか。当てはまるものを選択肢 1～3 の中から 1 つ選んでください。

- 食品安全についての意見交換会への参加について尋ねたところ、「参加したことがある」が 57.7%で、「参加したことがない」が 38.8%であった。
- 「参加したことがある」とする割合は、年代別では、60 代以上のほうが他の年代に比べて有意に高い。
- 平成 20 年度調査では、「参加したことがある」が 50.1%であり、意見交換会への参加割合は増加している。

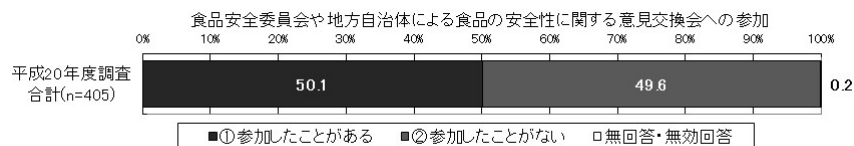
図表 10-1 食品の安全についての意見交換会への参加の有無（n=425）



図表 10-2 食品の安全についての意見交換会への参加の有無（属性別）



<参考>平成20年度調査



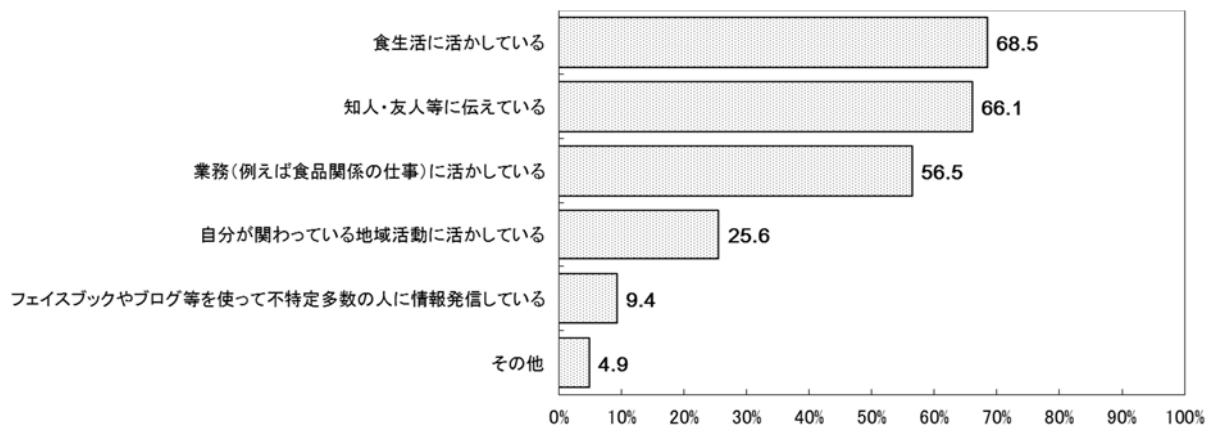
※今回調査と平成20年度調査における選択肢が一部異なることに留意。

11. 食品安全委員会から得た情報の活用方法（問 11）

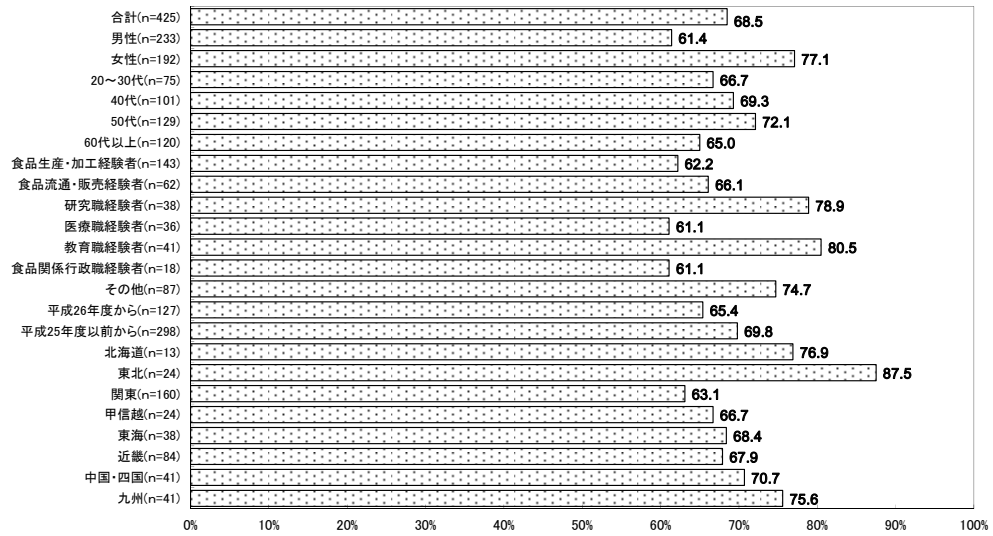
問 11 あなたは、食品安全委員会から得た情報について、どのように活用していますか。
選択肢 1～6 の中から当てはまるものを全て選んでください。

- 食品安全委員会から得た情報の活用について尋ねたところ、「食生活に活かしている」が 68.5%で最も多く、次いで「知人・友人等に伝えている」が 66.1%、「業務（例えば食品関係の仕事等）に活かしている」が 56.5%であった。
- 「その他」の活用として「教育に活かしている」などがあつた。
- 平成 15、20 年度の同様の調査結果では、平成 15、20 年度ともに、1 位「積極的に知人・友人等に情報を伝える」、2 位「家庭における食生活を充実させる」、3 位「地域における様々な活動を通じて地域の人に情報を伝える」、4 位「現在の業務を通じて消費者に還元する」であった。今回調査と比較すると、地域活動で活かす（地域の人に情報を伝える）、との回答が減少している。

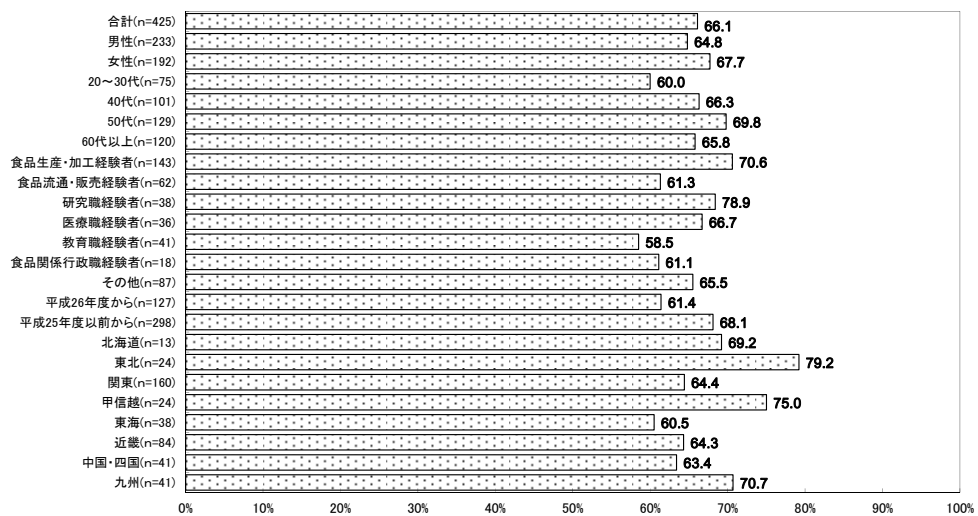
図表 11-1 食品安全委員会から得た情報の活用方法（n=425）



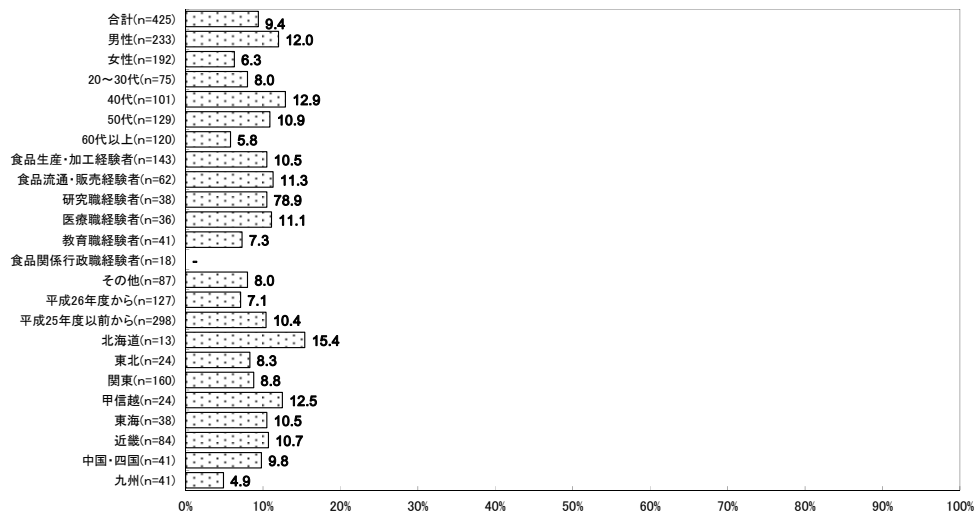
図表 11-2 食品安全委員会から得た情報の活用方法
(食生活に活かしている)



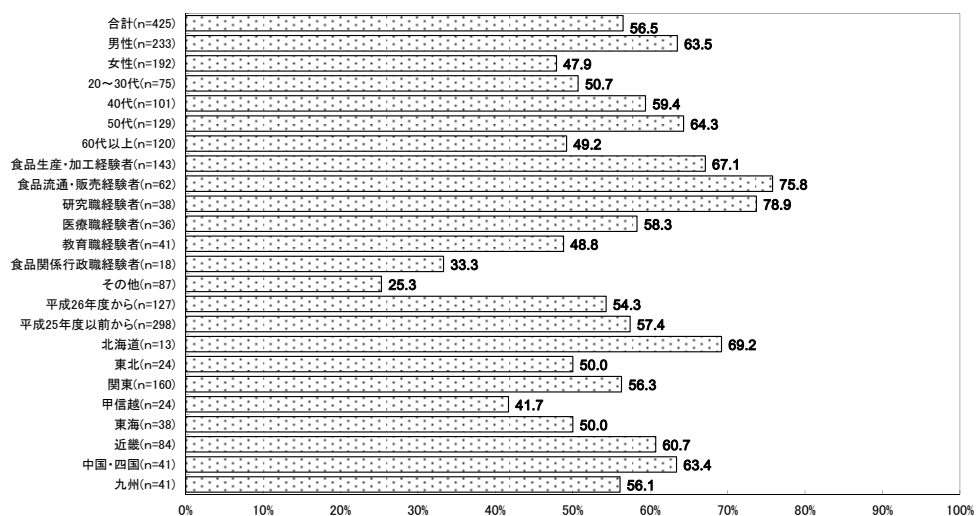
図表 11-3 食品安全委員会から得た情報の活用方法
(知人・友人に伝えている)



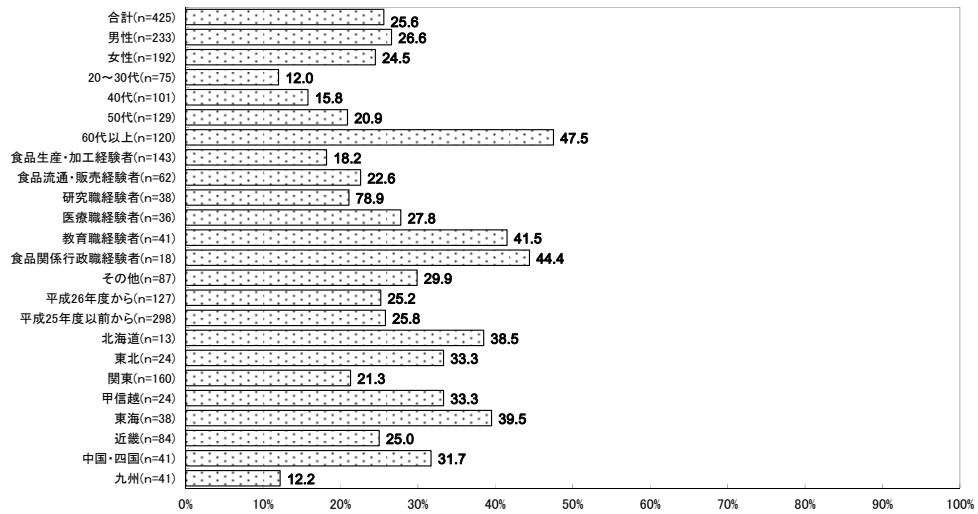
図表 11-4 食品安全委員会から得た情報の活用方法
 (フェイスブックやブログ等を使って不特定多数の人に情報発信している)



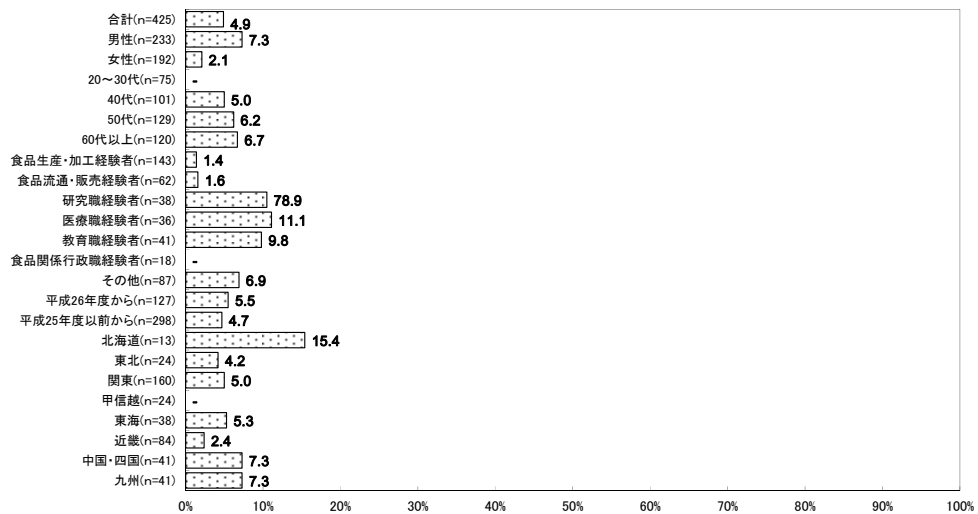
図表 11-5 食品安全委員会から情報の活用方法
 (業務に活かしている)



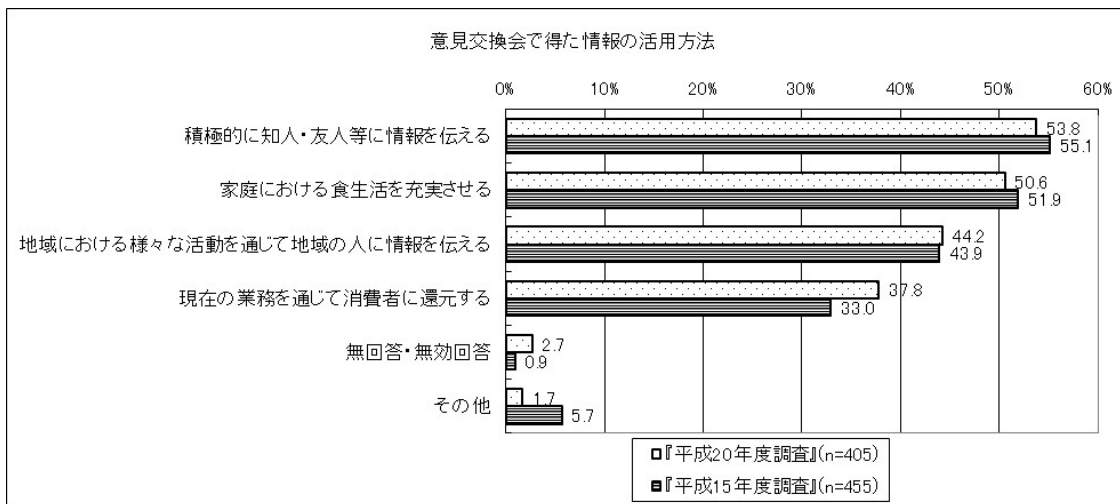
図表 11-6 食品安全委員会から得た情報の活用方法
(地域活動に活かしている)



図表 11-7 食品安全委員会から得た情報の活用方法
(その他)



＜参考＞意見交換会で得た情報の活用方法（平成15・20年度調査結果）



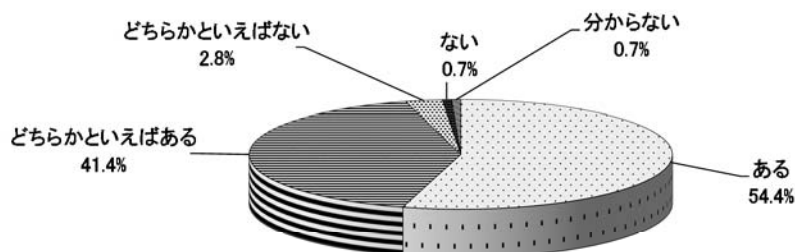
※平成15年度及び、20年度調査では、「意見交換会で得た情報などの活用」について、2つ以内で選択させた（今回調査では「食品安全委員会から得た情報の活用」について、当てはまるもの全てを選択させた）。

12.食品の安全性に関する認識のギャップ（問 12）

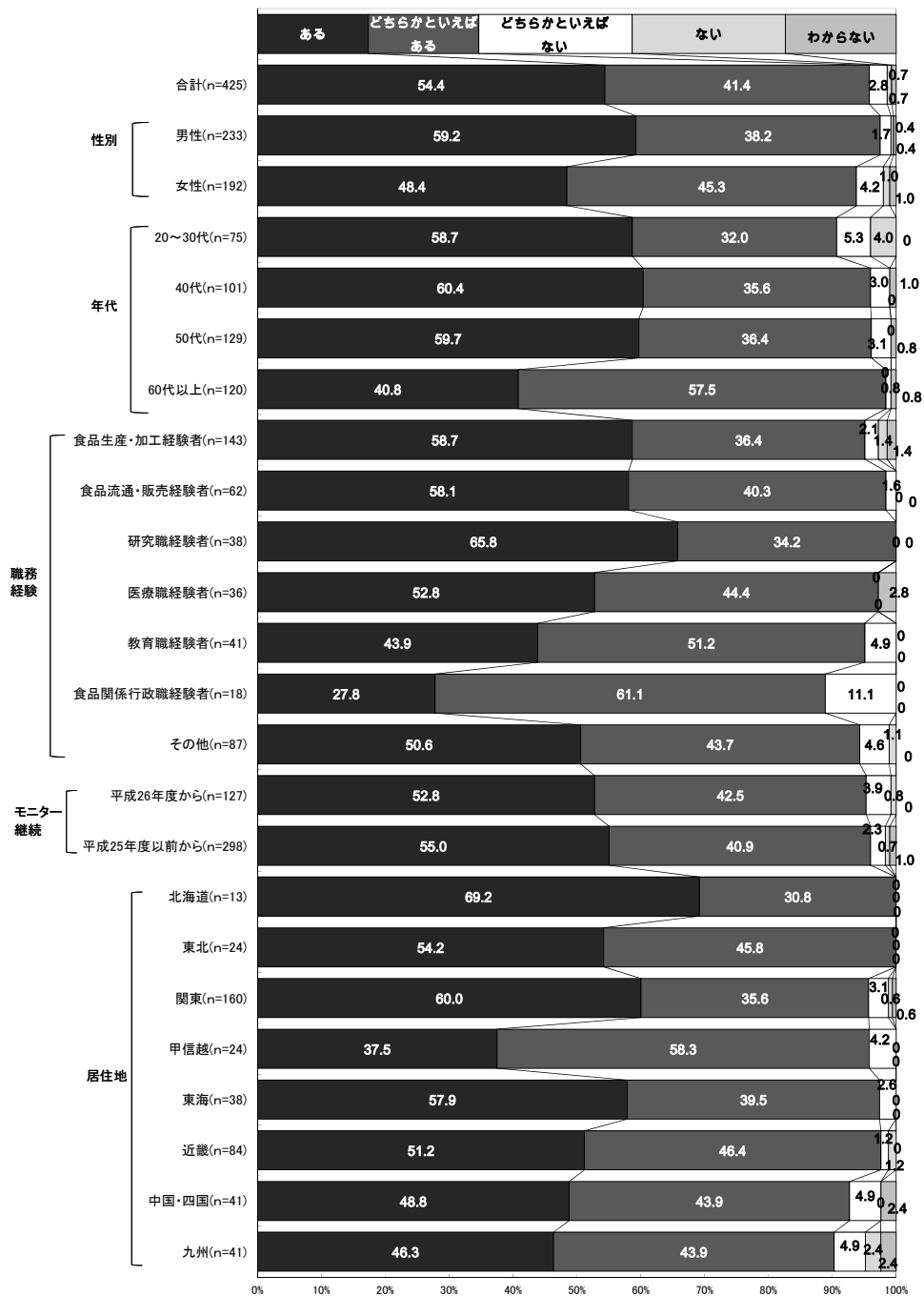
問 12 食品の安全性に関して、消費者等と科学者等の間で、認識のギャップがあるとされています。あなたは、こうしたギャップをどの程度感じたことがありますか。当てはまるものを選択肢 1～5 の中から 1 つ選んでください。

- 食品の安全性に関する、消費者等と科学者等の間での認識のギャップについて尋ねたところ、「ある」と「どちらかといえばある」の合計が 95.8%となった。
- ギャップが「ある」、「どちらかといえばある」を合わせた、ギャップがあるとする割合は、年代別では 20～30 代が 90.7%で、他の世代と比べて低い。
- 平成 20 年度調査では、「ある」と「若干ある」の合計が 92.3%であった。

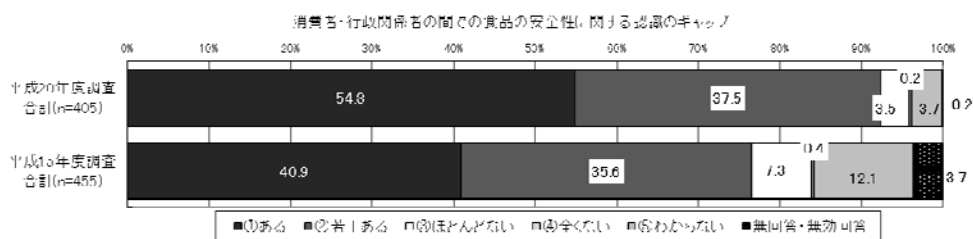
図表 12-1 消費者等と科学者等の間での食品の安全性に関する認識のギャップ（n=425）



図表 12-2 消費者等と科学者等の間での食品の安全性に関する認識のギャップ（属性別）



<参考>平成 15 年度及び平成 20 年度調査



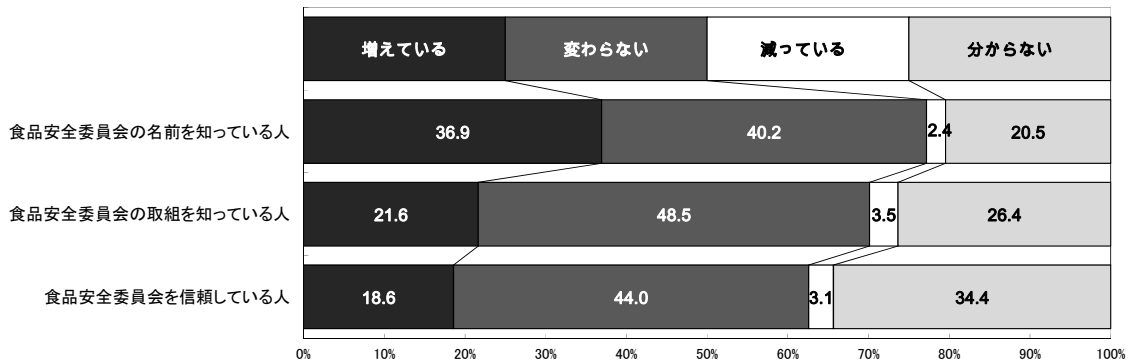
※今回調査と平成 15・20 年度調査における選択肢の文言が一部異なることに留意。

13.食品安全委員会に対する認識の変化（問13）

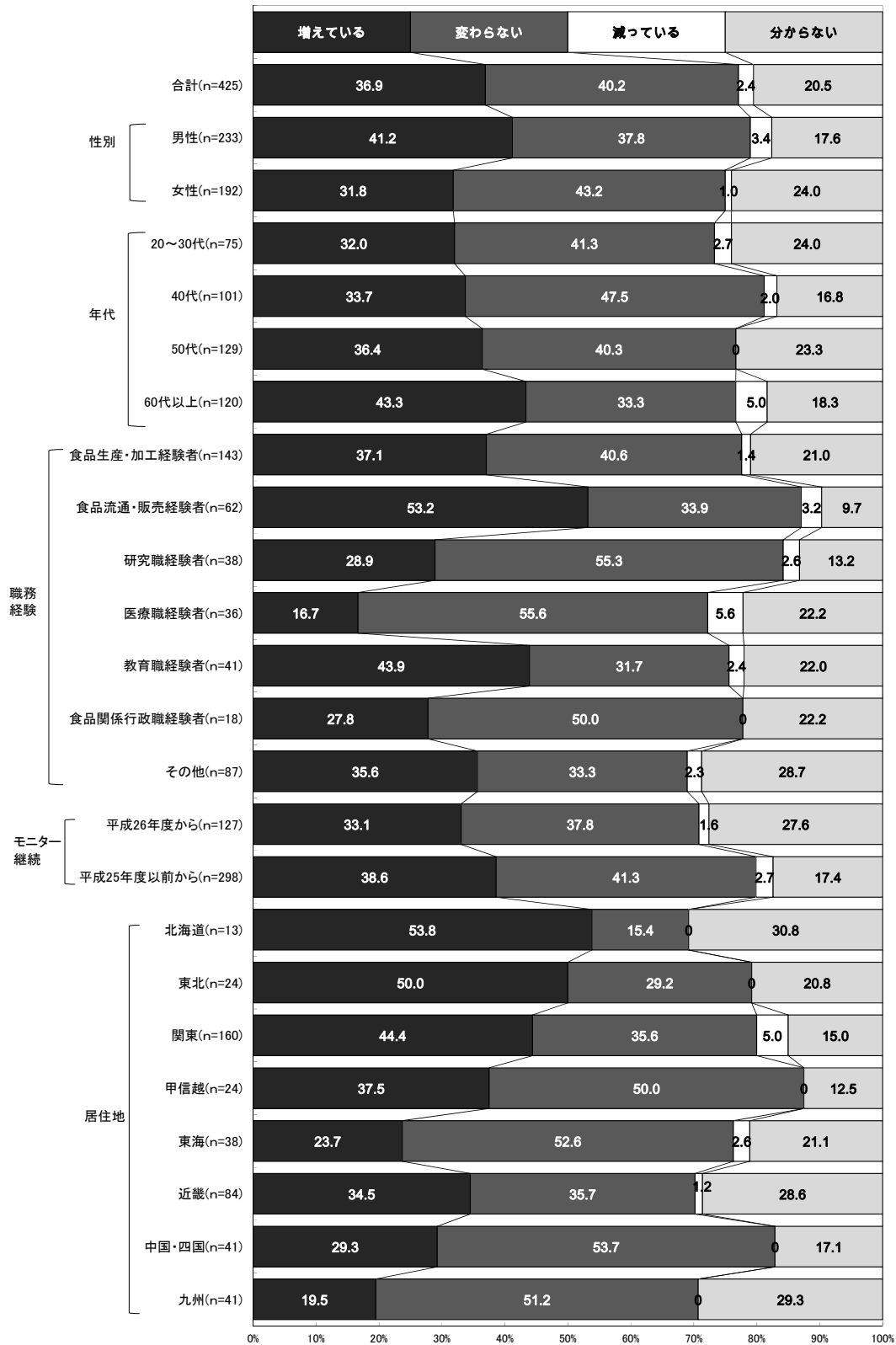
問13 食品安全委員会が発足して12年経ちましたが、あなたの周囲の方々の食品安全委員会についての認識に、変化があると思いますか。①～③のそれぞれについて、当てはまるものを選択肢1～4の中から1つずつ選んでください。

- 食品安全委員会に対する認識の変化について尋ねたところ、「食品安全委員会の名前を知っている人が増えている」が36.9%、「食品安全委員会の名前を知っている人は変わらない」が40.2%であった。
- 平成20年度調査では、「活動を含めて知っている人が増えている」(5.9%)、「名前を知っている人が増えている」(30.9%)であった。

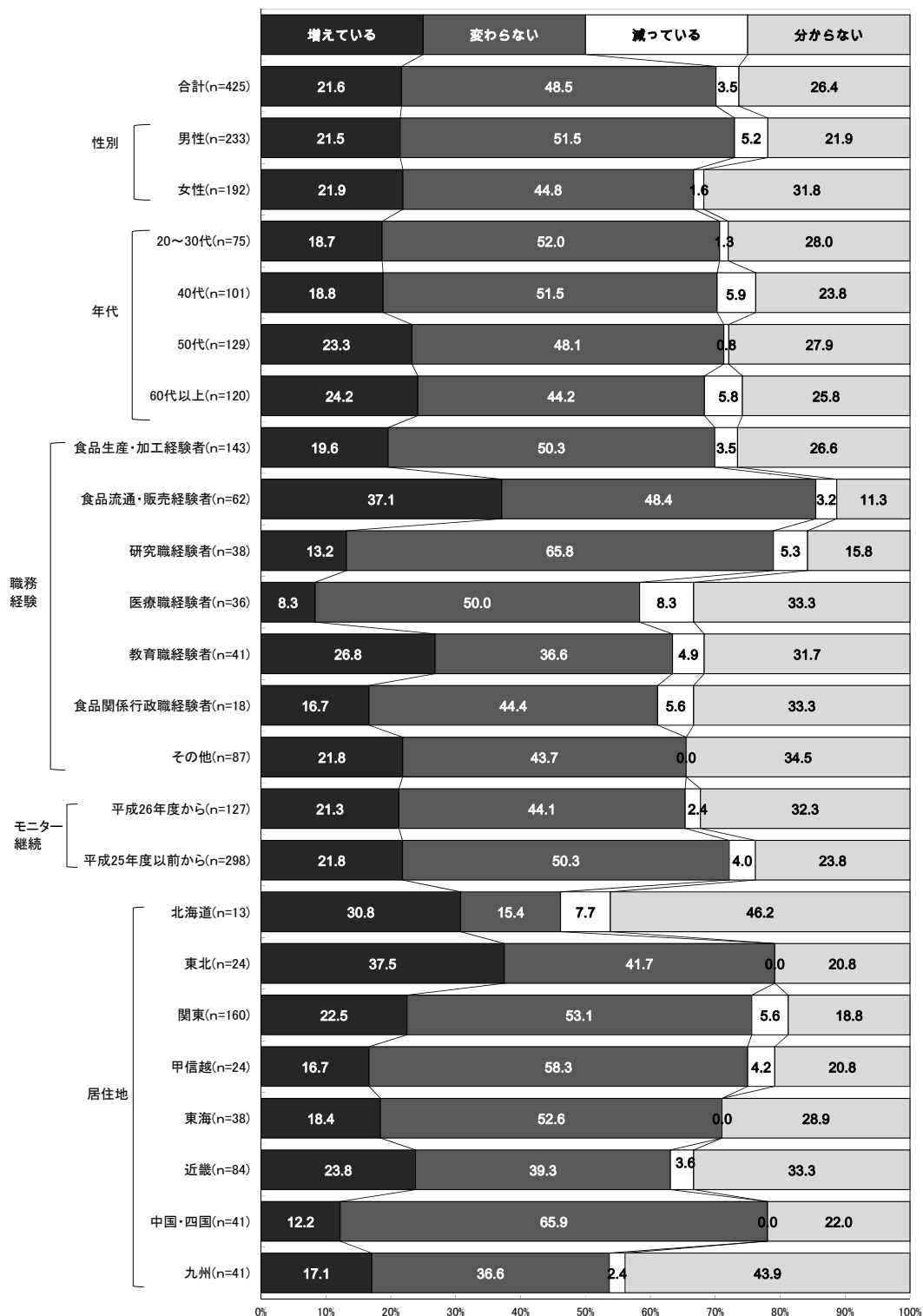
図表 13-1 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化（n=425）



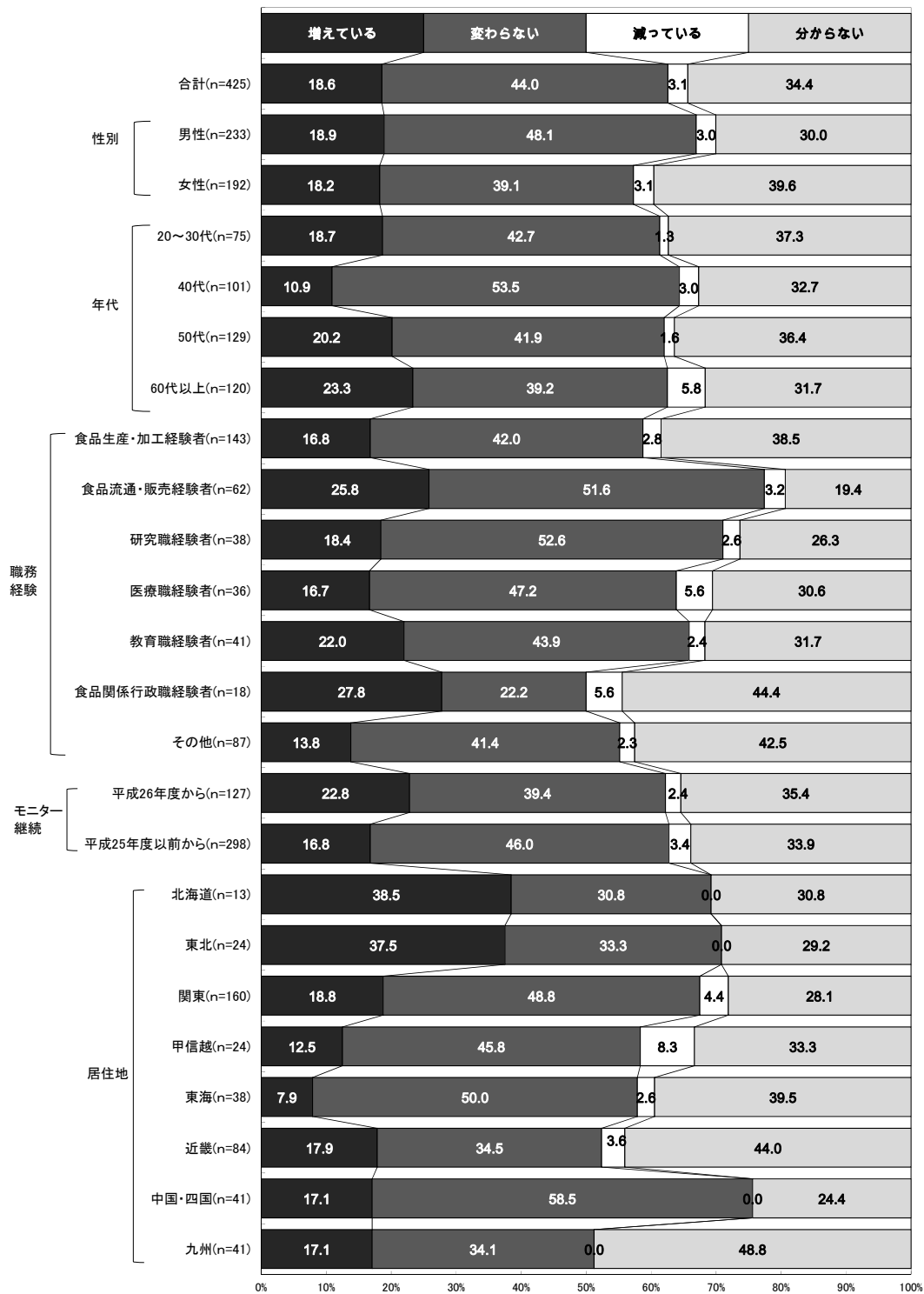
図表 13-2 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化
 (食品安全委員会の名前を知っている人の増減)



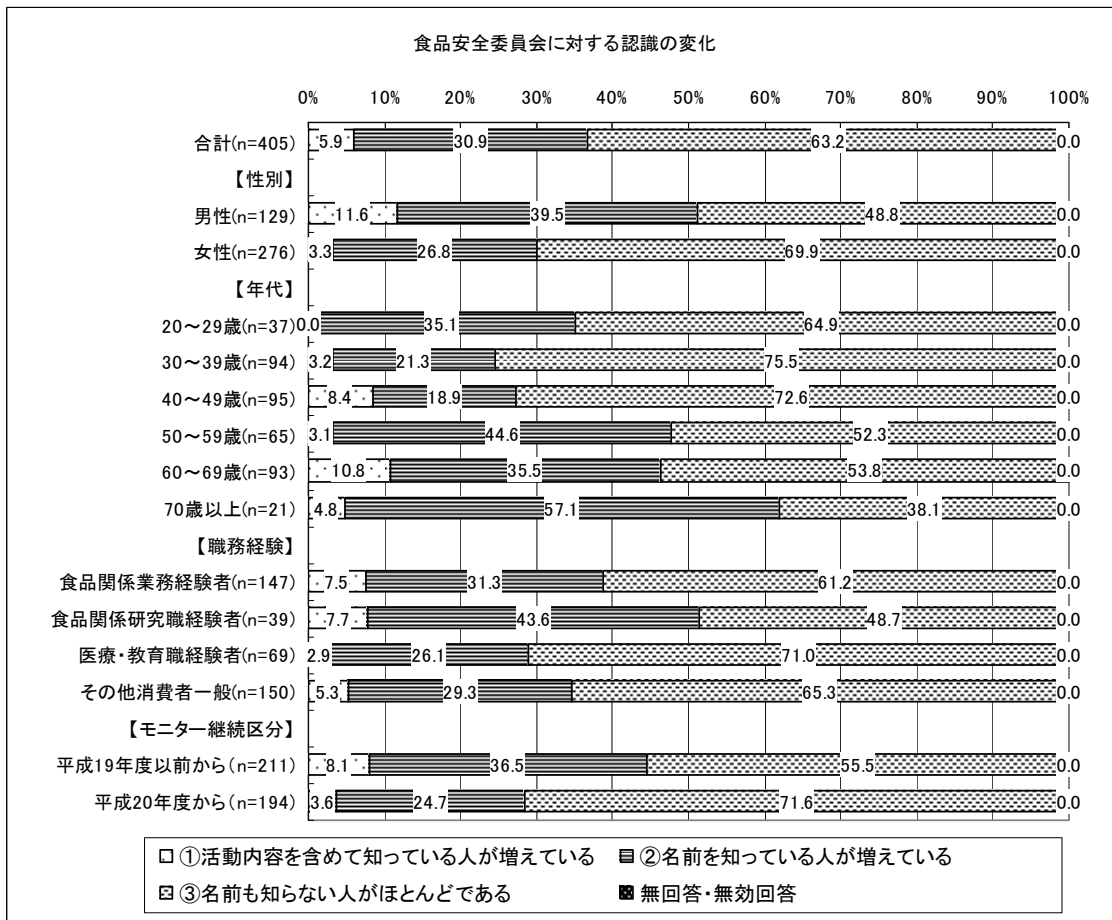
図表 13-3 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化
 (食品安全委員会の取組を知っている人の増減)



図表 13-4 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化
 (食品安全委員会を信頼している人の増減)



<参考> 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化（平成20年度調査結果）



※今回調査と平成20年度調査においては質問方法が異なる。